

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員間で読み合わせをし共有している	経営理念、社是、日常の五心、介護方針などを朝礼で唱和し、スローガンも職員会議で唱和している。法人職員として守るべき事項が記載されたルールブックを常時携帯しており、法人やホームの方針にそぐわない言動が見られた場合にはホーム長が注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園・小学校はじめ、中学校の福祉体験の受け入れをしている 行事のときなどに地域のボランティアを積極的に受け入れて交流の機会をつくっている	介護方針の4番目に「地域ケア」が掲げられている。地元スーパーや商店から食材や利用者の日用品等を購入している。短大生の実習、ヘルパー研修、中学生の福祉体験なども受け入れている。保育園児と利用者が一緒に芋掘りと焼き芋を楽しんでいる。踊りやフラダンスなどのボランティアの訪問もある。散歩に出掛けた時に花を頂いたり、畑から採りたての野菜が届くなど地域住民との交流も日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の「健康と福祉の集い」の参加協力 地域包括連絡会に参加し情報交換行う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施 防災に関する意見を取り入れて、消防団を招いての訓練を計画している 会議で出た意見を職員に伝達している	利用者と家族代表、区長、民生委員、有識者、市職員、地域包括支援センター職員の出席を得ている。12年度の課題であった隔月の開催は地域や行政関係者等の協力により概ね2ヶ月毎に開催できている。ホームの運営や活動状況、利用状況などを報告し、出席者と情報や意見交換している。出席者からの提案であった大災害時における職員体制や法人全体のマニュアル作成等については大規模火災研修を受け、それを参考に検討する方向で進んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーにもなっていた き連携をとっている 市の地域密着型サービス事業所連絡会に参加して、情報・意見交換をしている	地域包括支援センター主催の地域ケア会議(毎月開催)に出席し情報交換や困難事例などについて検討している。市からは法令に関する資料、感染症等の研修案内、介護事業所情報等がメールで届けられている。転倒し医療機関に受診した事故について報告したことがある。相談事に対し市担当者は常に協力的である。更新申請は家族の依頼により代行している。また、認定調査員が来訪した時は本人の状況を伝え、家族が同席することもある。介護相談員が毎月2名来訪し「また、来たよ～」と利用者に親しく声をかけてから話しを始めているという。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠以外基本的には施錠せず、職員寄り添い、見守りの徹底	法人内の他施設と連携しながら身体拘束の研修を定期的に行っている。身体的拘束のほか利用者の行動を制限する行為を具体的に理解しており、弊害に関しても充分理解している。玄関の施錠を含む一切の拘束は行なわれたことはない。利用者が外出しそうな時にはさり気なく声をかけて一緒に出掛けたり、時には気付かれないようについて行くなど、本人の思いを尊重している。離設による事故は今のところ見られない。	

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と介護支援専門員が権利擁護・虐待防止に関する法人内研修参加し、参加後は会議等で情報共有し虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と介護支援専門員が権利擁護・虐待防止に関する法人内研修に参加し、必要がある家族や関係者には話をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている 書面や口頭で説明を行い理解いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱の設置 ・面会時などに最近の様子報告をし家族の要望や意見を聞きカンファレンスの場で伝達している ・運営推進会議に利用者様とご家族様の代表に参加していただいている	利用者のほとんどが言葉や仕草で自分の希望や意思を伝えることが出来る。ホーム便りを毎月発行し、ホームからの報告、連絡以外に日常や行事の様子をスナップ写真で紹介し、各職員が担当している本人の暮らしや健康状態などについて文章で報告している。家族が来訪した時は本人の生活状況などを伝えながら、ホームに対する意見や要望を伺っている。家族は訪問のたびに、また、毎月の便りで本人の様子を詳細に報告されているのでホームのサービスに満足している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者には毎週週報で現場の声を伝えており、月1回の法人運営会議でも直接伝えられている ・現場では、職員会議にて改善点等の話し合いを設けており、年2回、管理者との面談の機会もある	職員会議を毎月行っている。16時から2時間以上かけ日々提供しているサービス内容のふり返りをしたり、運営推進会議や利用者・家族からの意見・要望などを検討している。話し易い雰囲気であり和気藹々と話し合っている。利用者の状況等で緊急に検討が必要な時には急遽、勤務者のみで話し合っている。決定事項は日誌や個人ファイルに記入し全職員に周知している。職員は自己目標を立て日々研鑽し、半期毎にホーム長と面談し目標に対する評価を受けたり、私事の相談等もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し自己評価・目標を掲げ向上心を持って働けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内研修参加を勧めている ・認知症介護実践者研修など外部研修に順次職員を参加させている		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域包括連絡会やGH連絡会に参加している ・市内の事業者間交流研修も受け入れている		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとりながら話の中から情報収集をし関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や契約時などに家族の思いを聞き信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等との話し合いの他、担当ケアマネジャーや利用していた事業所から書面や口頭による情報を得て対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭におき声掛け、支援行っている 掃除や洗濯、食事作りなど共に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに最近の様子の報告 月1回のホーム便りにて近況報告		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来ていただいている	利用者の生活暦や習慣、趣味等家族等から情報を得ている。家族や兄弟、友人、親戚などの面会があり、また、手紙や葉書が届いている。馴染の美容室に出かけたり、孫の結婚式への出席、一泊旅行など、家族の協力を得ながら行われている。馴染の里山や浅間山を眺めながら散歩を時々楽しんでいる。基本方針に「認知症になっても馴染みの関係を大切に、あるがままを受け入れて、普通の生活を続けられるよう支援します」と記されており、職員はその方針を共有し支援に努めている。	

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	日々の暮らしの中で状況に応じた配慮をし ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人または、家族にお会いしたときには声 掛けその後の様子や悩み事はないか伺っ ている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	・個人の意向に添った支援をしている ・困難な場合は対応方法を常に検討してい る	「一人ひとりのペースで安定した生活が送れるよう支援しま す」とパンフレットに大きな文字で書かれている。職員は日々 利用者に関わる際に、一人ひとりの思いや希望に関心をもち 把握に努めている。外出、入浴などは本人の判断を重視し 支援している。食事に関しては好きな食べ物、嫌いなものな どは献立に反映させている。言葉での意思表示が困難な利 用者に関しては家族等の情報や日頃の様子なども参考に本 人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	・情報提供表の活用 ・普段の会話の中から得た情報の共有		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個々のペースに添ったケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	カンファレンス行い本人、家族の意見を取り 入れ計画を立てている	介護計画について前回目標達成計画では課題として上げら れていたが、現在、ケース担当スタッフと話し合い、気づきや 意見を反映した個別介護計画書を作成している。本人や家 族に説明し同意を得た上で実施している。毎月、計画通りに 実施されているか確認し、見直しは概ね3ヶ月毎に職員全員 で協議し、本人の状況変化があったり計画通りに進まない場 合には修正や現状にあったものに作り変えている。市の介 護計画の指導者からも見直しなどについて「基本ができてお り、課題に基づいてサービスがきちんと設定されている」との 評価も受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録のほかに、職員間の連絡ノ ットを活用して速やかな情報共有を行ってい る		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況観察や家族との話し合いの中でニーズを把握し、これに極力添えるように職員間で協議し可能な範囲で柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作りや保育園、小学校との交流をしたり、ボランティアさんに来所していただき楽しめる工夫をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な方には受診介助を行い、協力医の在宅診療により連携がとれている	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。契約時に往診を行っている協力医療機関に変更する方もいる。訪問診療が月一回あり利用者の医療面での適切な管理が行われている。現在、利用者の主治医4名と24時間365日何時でも連携が取れるような関係性を築いており、利用者の異常時には適切な医療を受けられるように努めている。協力歯科医院には必要時に往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、連絡、相談の徹底をし看護師、協力医療機関と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	カンファレンス参加 面会に伺い状況把握し医者、看護師と情報交換し早期退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を聞きながら、医師を交えて今後についての話し合いを持つ	「重度化した場合における対応に係る事業所の指針」があり、利用契約時に緊急時における連携体制、重度化した場合の対応、入院期間中の取扱い、終末期の対応についてホームの方針を説明している。看取りを希望された家族には対応が可能なケース、困難なケースを伝えている。今年度の退居者は4名おり、ホームでは移設などについて十分対応し利用者や家族が困らないように関係機関に繋いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会の参加、マニュアル作成		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施	消防署の指導の下、昼間想定避難訓練を行っている。車椅子の利用者も含めて、職員の誘導を受けながら建物の外へ避難している。職員は通報訓練や消火器の扱い方なども同時に体得している。2回目は法人本部の協力を得て夜間想定訓練を予定している。スプリンクラー、通報装置、火災報知機、誘導灯、消火器など防災設備を完備し、利用者の安心安全の為に万全な策がとられている。今後、運営推進会議の後に避難訓練を行うことや職員の緊急連絡網を実際に試そうという意向もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ちよく安心して生活が送れるように一人ひとりにあった声掛けを行い対応している	基本方針の中に「一人ひとりの人格を尊重し、安心と尊厳のある生活を支援します」、「その人らしさを大切に、無理のないケアを心がけます」とある。職員は研修を受け、人格の尊重やプライバシー確保の大切さを十分理解している。職員は利用者のその人らしいありのままの姿を尊重し、本人らしく暮らし続け居心地良く過ごせるように努めている。呼びかけは本人が望んだ苗字や名前に「さん」をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が選択できるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の大まかな流れは決まっているが、その日その時に希望があれば尊重し希望に添えるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来ることを行っている	利用者は野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、食器洗いや食器拭きなど、できる範囲で職員と一緒にしている。キッチンからは煮物や油の香りがホール全体に漂っている。献立は利用者の希望を組み入れながら職員が作成し、食事の準備は職員が交替で担当している。食形態は利用者の咀嚼や嚥下状態を見ながらトロミ、ミキサー、キザミなどで提供している。食事前には口腔や嚥下体操を行っている。利用者と職員は家族のようにテーブルを囲み、おしゃべりも楽しみながら食事をしている。外食やテラスでの食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時間にとらわれず、必用に応じて対応している 常食、キザミ、ミキサーなど希望や状態に応じて対応している		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった介助方法で行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用をし排泄パターンを把握し対応している	利用者一人ひとりの排泄状況を職員は共有している。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行われている。食事前後や入浴前、就寝前などに声がけをすることもある。夜間はリハビリパンツ(夜間用のパット併用)で対応し一人ひとりの排泄時間に沿って声がけしたり、トイレ誘導している。自分で起きてきてトイレに行く方もいる。利用開始当初はリハビリパンツであったが布パンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物やヨーグルト等で個々に調節をおこなっている 医師の指示で座薬使用		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めてしまっている所もあるが、その日の状態で個々にあった工夫をしている	週2回以上の入浴を基本とし、お風呂は日曜日以外毎日準備している。ユニットバスと檜風呂がある。1ユニットで一日に3~4名入浴している。浴槽からの出入りや洗身で二人介助の方もいる。利用者の入浴日は概ね決まっているが利用者の希望する時間に入浴できるよう配慮している。入浴を拒む利用者には無理強いをせず、翌日に送ることもあるがほとんどの利用者が一時的に拒むケースであり、時間を置いたり人を変えることで入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換を随時行い、気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにまとめてあり、いつでも見れるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や掃除、洗濯など得意な事、できる事を役割分担している		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や散歩、四季折々戸外へ出掛けられる様に心がけている	ホーム周辺を散歩し気分転換している。地域の行事(小満祭・イルミネーション観賞など)には希望する利用者が職員と一緒に出掛けている。行事外出はドライブ中心で、四季折々、花見、ヒマワリ、コスモスなどの探訪で近隣市町村の名所旧跡、公園などへと出かけている。小学校の音楽祭に招待され出かけている。今年も恒例の栗拾いに中学生と出かけ時間も忘れるほど楽しまれたという。外出は人数に応じて法人のデイスービスの車を借りて出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により所持されたたり、買い物に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、ハガキ、電話を受けることはあるが、返信には至っていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、季節の飾りつけなどを工夫している	共有スペースは床暖で、たたみコーナーには冬季、コタツが設置される。食堂兼談話室にはテラスから明るい日差しが差し込み気持ちが良い。季節ごとの飾り物もテレビ横に飾られるという。ユニットの間にあるテラスは広く、食事をしたりおやつを食べたり、時には音楽教室が開かれることもある。食堂のテーブルでは利用者と職員が食事の準備をしたり作業をしたりと、何時も誰かがいるので自然と皆が集ってくる居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やホールを利用して、それぞれの居室を行き来している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の物の配置などはご家族様・本人に任せている	花や樹木の名前がついた居室には洗面所、ベッド、クローゼット、エアコンとパネルヒーターが取り付けられている。利用者は自宅から使い慣れた寝具、大切な家族写真、喋る犬ロボット、雑誌や漫画本、沢山の洋服、テレビなどを持ち込んでいる。馴染みの品々に囲まれ、愛用品もある居室が本人にとって安心して過ごせる場所となっている。100歳と101歳の利用者の居室の壁には市から贈られた敬老(長寿)祝の大きく立派な賞状が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂、居室には絵や名前があり分かりやすいように工夫している		